

える。

『漢語大詞典』には、「三十斤爲一鈞、千鈞即三万斤、常用來形容器物之重、或力量之大」と説明し、さらに【千鈞一髮】の項では、「千鈞重物用一根頭髮繫着。比喻万分危急或異常要緊、語本『漢書』「枚乘伝」「夫以一縷之任、係千鈞之重、上懸無極之高、下垂不測之淵、雖甚愚之人、猶知哀其將絶也」と説明する。

▼ここでは道真が寶平九年（897）に（権）大納言大将となったこと、こえて昌泰二年（899）には右大臣右大将となり、いよいよ責任が重く身にかかることになったことを指す。

【類義語】

▼臨淵：淵に臨む。①「深い淵のそばに立つ」、②「非常に危ない状態のたとえ」の説明を載せる。
『大字源』では、「百仞の淵に臨む。転じて危ない様子」と説明し、『荀子』「勸学」の「臨百仞之淵」を載せる。

164○万仞：高さまたは深さの甚だしいこと。萬尋。「仞」は七尺、また四尺、五尺六寸、八尺の諸説がある。

『唐書』「王勃傳」に「孤峰絶岸、壁立萬仞」の句が、また王之渙の「涼州詞」に「黄河遠上白雲間、一片孤城萬仞山」の句が、また白居易の「初入峽有感詩」に「上有萬仞山、下有千丈水」の句が見える。
『菅家文章』「絶句十首¹³⁴賀諸進士及第一六」にも「龍門此日平三尺、努力前途万仞強」の句がある。

○淵 ……水を深くたたえているところ。川などの特に深くたてているところ。（『漢語林』）

165○具瞻：①人民がともに仰ぎ見る。②人民に仰ぎ見られる人。高位・高官の人。「具」は「俱」の意。（『大字源』）

『詩経』「小雅、節南山」に「赫赫師尹、民具爾瞻」集伝「具俱、瞻視」の用例がある。